

2019 インターナショナルウィーク  
インドシナデイズ IN 湘南ひらつかキャンパス  
—少数民族ミエン・ヤオの文化と伝承—  
説明集



## 2019 インターナショナルウィーク

### お礼とご挨拶

神奈川大学経営学部  
学部長 大橋 哲

本学では、国内外の学生がともに主体的・能動的に取り組み、多様で多彩な文化に触れられる機会として、「インターナショナルウィーク」を開催してきました。湘南ひらつかキャンパスにおいては、2017年には地元・平塚市がオリンピックのホストタウンとなっているリトアニア共和国をテーマとして「リトアニアデイズ」を、2018年には本学とも交流協定を締結する等深い関係を持つマレーシアをテーマに「マレーシアデイズ」を実施してきました。

前述のように、過年度は特定の国をテーマとしてきましたが、3年目となる2019年は「インドシナ」という地域をテーマと致しました。インドシナには、当該地域を形成する国民国家であるカンボジア、タイ、ビルマ、ベトナム等の主要民族以外に数多くの少数民族が共生、居住している地域です。今回はそれら少数民族のうち、タイ、ラオス、ベトナムから中国まで広く居住している「ヤオ族」を中心に上げたいと考えます。

ヤオ族は、中国を中心にインドシナに広く分散居住し、約400万人の人口を有しますが、それぞれの国では少数民族と位置付けられています。数百年を掛け分散移住を繰り返しているにもかかわらず、ヤオ族に共通する儀礼文化を継承し続けています。儀礼は手書きの漢字経典を誦読することで進行され、遠く離れた地域であっても共通する経典が用いられており、この漢字経典と儀礼文化がヤオ族文化の特徴といえます。

今回、ベトナム北部に居住するヤオ族文化伝承者を招聘し、儀礼の実践に見られるパフォーマンスの実演を行っていただき、ヤオ族文化の真髄を紹介することで、人類文化としてのヤオ族文化の貴重さについて本学学生に理解してもらうとともに、異文化を受容する力を養いながらを目的とします。

なお、今回主に取り上げるヤオ族については、「2019年度 神奈川大学国際交流事業」として採択されている「ヤオ族の儀礼における文献と誦読歌唱法の総合的研究」の成果報告会（事業者代表：廣田律子経営学部教授）として開催される国際シンポジウムとリンクさせ、国際シンポジウム閉会後に前述の儀礼の実践（パフォーマンス実演）や本学学生と研究者との交流を図りたいと考えます。

シンポジウムへ参加される皆様方の寛大なご理解とご協力に感謝申し上げますとともに、地元・平塚市をはじめとしたより多くの市民の皆さまに本イベントへ参加して頂きますよう心より願っております。

## 目次

2019 インターナショナルウィーク お礼とご挨拶 .....	1
目次 .....	2
著者・訳者一覧 .....	2
ベトナム、ラオカイ省ミエンにおける神像画開光儀礼 .....	4
	解説 内海涼子
紙銭と紙馬 .....	5
	解説 内海涼子
瑤族儀礼用切り紙の類型と特徴について .....	7
	著 何紅一
	訳 譚静
「走道・串道」解説（文書あり） .....	12
	解説 内海涼子
串団舞 .....	16
	著 趙金付
	訳 譚静
ベトナム、ラオカイ省のミエンによる「招兵」（文書あり） .....	23
	解説 内海涼子
踢兵帰壇について .....	25
	著 趙金付
	訳 倉澤茜
漢字経典『盤王大歌』と歌唱 .....	30
	廣田律子

## 著者・訳者一覧

氏名（敬称略）	所属	職階
内海 涼子	大阪成蹊大学 芸術学部	教授
何 紅一	中国中南民族大学 文学与新聞伝播学院	元教授、ユネスコ民間工芸家
譚 静	中国広西民族大学 民族学与社会学学院	講師
趙 金付	中国湖南省藍山瑤学会	会員
倉澤 茜	神奈川大学 経営学部	非常勤講師
廣田 律子	神奈川大学 経営学部	教授

※掲載順

2019 インターナショナルウィーク  
インドシナデイズ IN 湘南ひらつかキャンパス  
—少数民族ミエン・ヤオの文化と伝承—  
説明集

## ベトナム、ラオカイ省ミエンにおける神像画開光儀礼

(解説 内海涼子)

ラオカイ省のミエンでは、新作の神像画が完成すれば、注文主や絵師の住所や氏名、開光儀礼の日付、祈願文などが絵師によって、「元始」あるいは「総壇」の背面に記される。「太尉」や「元始」の表の四角い枠内に記載されることもある。その後、絵師の家から注文主の家へと絵を移動させる許しを請う小儀礼が行われる。

開光儀礼は、製作した絵師が行う第一段階と絵師以外の高位の祭司らを招聘して行われる第二段階がある。第一段階は半日、第二段階は一昼夜を要する。第一段階は「小開光」とよばれたり、あるいは図像の墨書きの輪郭線を意味する「骨」の開光ともいわれる。第一開光では、神像画を壁や神壇に掛け並べたのち、剣や布で神像を清め、ニワトリの鶏冠の血を混ぜた朱墨を筆につけ各神像に点を付けることで、「骨」を目覚めさせる。第二段階では絵師以外の高位祭司らが絵を検分し、天兵を神壇に招き入れたのち、灯明によって神像を機能させる。このとき、「頭を開光すると霊神となる。左右の耳を開光すると文章が聞け、左右の眼を開光するとあらゆる方向が見える。鼻を開光すると香りを嗅げ、口を開光すると文章を説き、脛（頸の間違いか）を開光すると糧を欲す。左右の腕を開光すると傘をさして郷を歩くことができ、左右の手を開光すると文章を写す。脳を開光すると文章を覚える。腹を開光すると食べ物蓄え、脚を開光するとあらゆる方向に行くことができる。」という意味の呪文をとこなえる。つづいて、糸をとおした針をそれぞれの神像の鼻に象徴的に通し、神々や天兵を神像画に結び留め、かつ彼らを所蔵者や祭司の制御下に納める。

Among Mien in Lao Cai, Vietnam, when a painter finished a new set of ceremonial paintings, he writes the name and address of the owner to be, the name of the painter and the date of eye opening on backside of ". purification and eye opening of the ceremonial paintings is held in tow stages. In the first, the painter himself cleans the paintigs with his sacred knife, sacred water and a towel. Then, he activates the "bones", which means outline by black ink, making a dot with blood taken from alive chicken crest mixed in vermillion ink. In the second stage, high priests open the sky, invite gods and ancestors, and call troopes of spiritual soldiers into the house alter. Then they activate each character with a candle light, reciting like "Open the head, then become spiritual gods, Open the ears, become able to listen to texts, Open both eyes , able to see every direction, Open the nose, can smell. Open the mouth, able to talk texts, Open the throat, want food, Open both arms, able to walk around the village with a parasol, Open both hands, able to copy texts, Open the brain, able to remember texts, Open the intestine, Able to walk to every direction". After eye opening with light, the priest symbolically sews each gods' nose with a needle and thread to keep them there under the control of owners and priests.

## 紙銭と紙馬

(解説 内海涼子)

ミエンの儀礼では紙銭が神々や祖先、師父らに必ず捧げられる。

紙銭や紙馬の素材となる竹紙はかつては各家庭の女性たちが家周辺に生える若竹から制作していたが、ラオカイ省バサット県やサパ県では約40年前から紙銭用の紙も買うようになり近年では自宅では作っていない。紙銭や紙馬を作るのは男性祭司の仕事である。紙銭を造るには、まず、竹紙を紙銭の長辺の幅20~25cmに専用のS字型の小刀(割紙刀)で切り、短辺が約7cmになるように折りたたみ、8枚または16枚の紙が重なった状態にする。折った紙を表面が平らな木の台にのせ、直径約1cmの金属製の銭形判(紙掬)を押し当て、牛角や木の槌で打つと、紙面に銭形が刻印される。ベトナム、ラオカイ省のサパ県やバサット県では、一枚の紙銭に、5個×18列の銭形が押される。ただし、葬儀において用いられる紙銭では銭形は5個×12列である。また、村によっては12列以上なら良しとする場合もある。銭形の判には、作業効率をあげるため5個の銭形を連結し、一度に刻印できるものもある。銭形を押した後、紙の折り目を切り開き、一枚ずつに分けると、紙銭の完成である。

紙銭は紙馬とセットにして用いる場合もある。紙馬は紙銭とほぼ同じ大きさで、神々や祖先に銭を運び届ける騎馬功曹の姿を、馬牌とよばれる木版で刷った紙である。馬牌には6人の騎馬功曹が凸版であらわされている。馬は「陽間」功曹の乗り物である。度戒など特別な儀礼では、天府、地府、水府の功曹が、それぞれ鶴、虎、龍に乗る姿を表した「紙馬」も必要で、馬牌の4面にこれらの功曹たちが彫られている。

紙馬を刷る墨は、伝統的な木綿の衣服を濃紺に染めるのに用いられるリュウキュウアイの泥藍染液か生葉液に稲藁の灰と水を混ぜて作られる。墨を稲藁、またはリュウキュウアイの葉つき枝の束で馬牌に塗り、その上に数枚重ねた紙をのせ、手で押さえるか、布を巻いた棒で軽く叩くなどして刷る。

1枚の紙馬には6人の功曹が刷られており、1人の功曹は15個の銭を運ぶことができる。この数量にあわせ、紙馬とセットで用いられる紙銭には、銭形3列ごとに切り込みを入れるのが正式である。紙銭と紙馬は1枚ずつ重ね、2枚1組にする。紙銭と紙馬を重ねたものは、直径2~3cmの筒状に巻き、儀礼の内容に応じて必要な数を整える。

Paper Money and Paper Horsemen

UTSUMI Ryoko

For every Mien ceremony, a quite amount of paper money is indispensable to dedicate to the celestial beings and ancestors.

The paper money and paper horsemen are made of bamboo paper, which had been made at home by house wives, before. Paper money is made only by men priests.

First, a sheet of paper is folded into the size of a piece of paper money. Next, a few pieces of paper are stacked and put on a wood block. An iron stamp with a coin shape is put on the paper and hit with a buffalo horn. In Lao Cai province, Vietnam, an iron stamp with five coin shapes is used, too. On one sheet of money,  $5 \times 18$  coins (or in some case,  $5 \times 12$ ) are stamped. And then, the paper is separated to each money sheet with an iron knife.

In some rites, a sheet of paper money is set with a sheet of paper horsemen. In a sheet of horsemen, 6 horsemen are printed. Every horseman can carry 15 coins. For this, 5 half cuts are made in a paper money to divide it for 6 horsemen. But this process is often omitted.

To make the paper horsemen, a wooden printing block with 6 horsemen shape on one side. The ink to print the horsemen is made of mixture of indigo mad, straw ash and water. The brush to put the ink to the printing block is a bunch of rice straw. The printing block is put on the table, then indigo ink is spread on it. 4 to 8 pieces of paper are put on the printing block and tapped with a hand.

A horseman can carry 15 coins, for this, the paper money set with a paper horsemen is made 5 half-cuts to divide 5 coins by 3 rows. But often this process is omitted. A piece of paper money and a piece of paper horsemen is stacked one by one alternatingly. Then one set of money and horsemen is rolled like a short tube. Similarly, rolls of 2 sets and rolls of 4 sets of money and horsemen are made. Depends on rituals, these rolled money and horsemen are counted, and bunched with rice straws.

For some ceremony like the highest ordination ceremony “*tousai* (度戒 / 度師)”, besides paper horsemen, printed messengers on a crane, on a tiger and on a dragon are prepared, each for the office of sky, for the office of underworld and for the office of water. These are curved on the 3 sides of the printing block.



## 瑤族儀礼用切り紙の類型と特徴について

著 何紅一  
訳 譚静

本文では、民俗文化の観点から、中国の切り紙と民俗の関係を検討し、瑤族の儀礼に用いられる切り紙のタイプとその特徴をまとめ、さらに救助的な整理と研究を行われる重要性を指摘する。

### 一、切り紙と民俗について

1. 切り紙は巫術に由来する。人類社会の初期には、切り紙は祈りや災いを払うための巫術に多く使われていた。巫術に使われる切り紙は切り紙の原形であり、民俗切り紙の中での重要なカテゴリでもある。
2. 紙の発明と応用することで、切り紙は社会生活の中で最も便利な交流ツールと祈りや災いを払う道具になった。切り紙は民間の宗教儀礼と礼儀に広く用いられている。
3. 古代の「人日節」の「戴勝」という風俗は、切り紙文化の発展を促進した。中古時代以降、「人日節」は次第に衰えていく。切り紙は民衆生活の中の装飾芸術になり、人類社会のあらゆる面で役に立つようになってきた。しかし、切り紙は民俗儀礼との生得的なつながりがあり、依然として社会文化に重要な影響を与えている。

### 二、瑤族儀礼用切り紙の類型

1. 先祖をまつる際に使われる切り紙：「還盤王願」や先祖の神棚をまつるなどの儀式に使われる「紅花帳」「紙幡」「旗幡」などの切り紙である。
2. 子供を求めるタイプの切り紙：「求花」「還花」及び「求子橋」をかける儀礼に使われる切り紙である。
3. 葬送習俗に使われる切り紙：魂を招く幡、お棺のカバー、紙で作られた物事や墓に副葬する器物のような切り紙である。

### 三、瑤族儀礼用切り紙の特徴

1. 依存性：民間の儀礼活動に依存し、特定の儀式場に使われている。瑤族の師公と道公は一般的に紙切りを作るのが得意である。
2. シンボル性：切り紙の様子は宗教的な神秘性を持っており、実践を通じて一種の約束のように広く社会的に認められている。
3. 総合性：儀礼の道具として、環境を装飾するものとして、儀礼のめじるしとしてなどの多様な機能を備えている。
4. 共通性と独特性：内容と形式は隣接する民族とほとんど同じである。切り紙の民俗的な共通性を表しているだけでなく、また瑤族の切り紙文化のユニークさも表現している。

### 四、結論

1. 儀礼用切り紙は瑤族文化の重要な構成部分である。  
鮮明で生き生きとする切り紙を通じて深い文化の内包を表現している。瑤族の文化を

解読するために新しい視野を開いた。

2. 救助的な整理と研究を行われることを強化する必要がある。

瑤族儀礼切り紙は中国切り紙の一部として、世界レベルの非物質文化遺産に属し、高い歴史と文化の価値を持っている。しかし、現在の学界ではそれに対する重視が足りず、研究成果が少ない。切り紙を切るのが得意な老人たちの逝去とともに、瑤族の切り紙も伝承が絶える危機に瀕している。フィールド調査と資料の収集などを緊急に行わなければならない。特定の紙を切る伝統、技術、オーラル・ヒストリー、図像の意義に対して緊急に記録と整理を行わなければならない。さらに実物とその関連情報のファイルを作って保存し、深い研究を展開するために条件を作る必要がある。

キーワード：瑤族儀礼用切り紙；類型；特徴

## 瑶族仪式剪纸的类型及特征（提要）

中国 中南民族大学何红一

本文从民俗文化角度，探讨中国剪纸与民俗之关系、归纳瑶族仪式剪纸的类型与特征，指出瑶族仪式剪纸抢救性整理与研究的重要性。

### 一、关于剪纸与民俗

1. 剪纸起源于巫术，人类社会早期的剪纸大多被用于祈福避祸的巫术活动，巫术剪纸是剪纸的初原形式，也是民俗剪纸的重要类别。
2. 纸的发明与应用，使剪纸成为社会生活中最便捷的交流工具与祈福避祸工具。在民间宗教仪式和民间礼仪领域，剪纸得到普遍的运用。
3. 古代人日节“戴胜”习俗促进了剪纸文化的发展。“人日节”在中古以后逐渐式微，剪纸逐渐演变成为一种民众生活中的装饰艺术，服务于人类社会的方方面面，但它与民俗仪式与生俱来的联系，仍对社会文化产生重要影响。

### 二、瑶族仪式剪纸的类型

1. 祭祖类剪纸：“还盘王愿”、祭祖神龛等仪式中的“红花帐”、纸幡、旗幡等剪纸。
2. 求子类剪纸：“求花”、“还花”以及架“求子桥”仪式中的剪纸。
3. 丧俗类剪纸：招魂幡、棺材罩、纸扎及冥器剪纸等。

### 三、瑶族仪式剪纸的特征

1. 依附性：依附于民间仪式活动，出现在特定的仪式场域。一般瑶族师公、道公都擅长仪式剪纸。
2. 符号性：剪纸纹饰具有宗教的神秘性，其意向约定俗成。
3. 综合性：具有仪式道具、环境装置、仪式标志等多种功用。
4. 共通性与独特性：内容与形式上与相邻民族大同小异，既表现为剪纸民俗的共通性，又显示出瑶族剪纸文化的独特性。

### 四、余论

1. 瑶族仪式剪纸是瑶族文化的一个重要组成部分

它通过鲜明生动的剪纸符号来表现深厚的文化内涵，为解读瑶族文化提供新的路径。

2. 瑶族仪式剪纸的抢救性调查与研究亟待加强

瑶族仪式剪纸作为中国剪纸的一个组成部分，属于世界级非物质文化遗产，具有较高的历史文化价值。但是目前学界对其重视不够，调研成果很少。随着擅长剪纸的老人的逝去，瑶族仪式剪纸也处于濒临失传的境遇。急需开展对瑶族仪式剪纸的田野调查和资料收集工作，对特定的剪纸传统、技艺、口述历史、图像意义作抢救性记录与整理，建立实物档案和信息档案，为深入研究创造条件。

关键词：瑶族仪式剪纸；类型；特征

## **The Types and Characteristics of Yao Ceremonial Paper-Cutting (Summary)**

He Hongyi, South-Central University for Nationalities, China

This paper explores the relationship between Chinese paper-cutting and folklore through folk culture, and summarizes the types and characteristics of Yao ceremonial paper-cutting. It points out the significance of preservation and research of Yao ceremonial paper-cutting.

### I. About Paper-Cutting and Folklore

1. Paper-cutting originated from witchcraft. Most paper-cutting of early human society was used for worship and witchcraft activities. Witchcraft Paper-cutting is the prototype of paper-cutting, and an important category of folk paper-cutting.
2. The ancient "Men's Festival" witchcraft promoted the development of paper-cutting culture. The "Men's Festival" folklore gradually declined after Middle Ages, but its innate connection with paper-cutting witchcraft had impacted on later generations.

### II. The Types of Yao Ceremonial Paper-Cutting

1. Sacrificial ceremony: altar, "huan pan wang yuan" ceremony, "red flower curtain" and "colorful banner".
2. Coming-of-age ceremony: "God carved flower".
3. Praying for children: "seeking flowers" and "returning flowers" (Yao people's praying for children rituals).
4. Praying for longevity: Taoist and "bridge-building" (reduce disasters) rituals.
5. Funeral: spirits calling banner, coffin cover, paper offerings, and hell items.
6. Other

### III. The Characteristics of Yao Ceremonial Paper-Cutting

1. Dependency and sacredness  
Dependent on folk ritual activities, produced by Yao priests at the ritual ceremony. Strict requirements for producers, producing environments and handling of final products.
2. Symbolic  
The ornamentation is simple fine composition with common pattern styles of specific meanings.
3. Comprehensive  
Diverse craft skills, content and functions.
4. Commonality and uniqueness

Similar forms to neighboring nationalities, showing not only common paper-cutting folk culture, but also its own uniqueness.

#### IV. Discussion

1. The important value of Yao ceremonial paper-cutting in Chinese paper-cutting and Yao culture studies
2. The significance of investigation and research on the preservation of Yao ceremonial paper-cutting

Keywords: Yao ceremonial paper-cutting; type; characteristics

## 「走道・串道」解説（文書あり）

（解説 内海涼子）

ベトナムのラオカイ省に居住するミエンでは、掛燈、度戒などにおいて、主要な儀式の後などに、受礼者が師父先導のもと、45 のさまざまな身体所作を行いながら祭場を周回する儀礼がある。これは、文書には「走道」と記されており、「串道」ともよばれ、カメを捕まえて柵に入れ、屠り、調理して盛り付け、神々や祖先に捧げる過程を表している。文書には亀の字はないが、ラオカイ省のミエンでは、「道」は「亀」と同じ発音である。

45 の所作を行うと、少なくとも 45 分、長い場合は 1 時間半近くかかる。掛七燈儀礼では、受礼者が七燈を灯し、祭司の衣装や神頭などの法具を授けられ、罡歩を学んだ後に、行われた。2018 年のラオカイ省での度戒では、昇刀山など主要な儀礼が行われる 3 日間、それぞれ 1 回ずつ合計 3 回、35 名の受礼男性全員が祭司に続いて行われた。開光儀礼では、開光終了後に若手の祭司ら数名で行った。45 の所作の最後には、師父が机上に立てて持つ師棍を受礼者たちも一緒に握り、師父から弟子への伝承を表す所作がなされ、次いで甘酒を飲み交わした。

45 の所作のうち、27 番目の「串道」は、男性たちが両手を挙げてアーチを作り、後方の男性がその下をくぐる特徴的な動きがみられ、この一連のパフォーマンスの呼称にもなっている。次の 28 番の「背道」では、二人ずつ背中合わせになったまま跳ねながら周回する。また、39 番目の「却杏周」では、向かい合った二人が片方の足を合わせ、そのまま片足で跳ねながら周回する。

何故、祭礼の重要な儀礼の後に、カメを捉えて捧げるのか？ 何故カメなのかについては十分に明かではない。七燈以上の祭司はカメを食べてはいけないという。

個別的な意味については、曖昧ながら、サパ県の高位祭司たちによると、「走道」儀礼の意味は、「傳法梅山」すなわち、梅山派の術を行えるように受礼者に伝授するためであるという。度戒のなかでは、梅山派の教えが、森のなかで受礼者だけに開示される儀礼もあり、ミエンの宗教文化をうかがうことができる。

『置本大運銭沙刀歌伝度 刀山選銭用』（ラオカイ省祭司所蔵）より

「又是走道路頭用」

1. 関道聖（亀を入れる柵の場所を探して決める）
2. 関弓門（門を作る）
3. 排弓門（門を飾る）
4. 立道條（柵を立てる）
5. 傳道条（柱を立てる）
6. 織道籬（壁を織る）
7. 関道門（門に入れる道を作る）

8. 粧道（門を飾る）
9. 出左手（亀の左手が出る）
10. 出右脚（亀の右足が出る）
11. 出右手（亀の右手が出る）
12. 出左脚（亀の左手が出る）
13. 出道頭（亀の頭が出る）
14. 出道尾（亀の尾が出る）
15. 出道肝（亀の肝が出る）
16. 出道場（亀の腸が出る）
17. 出道圓（亀が全部で現れる）
18. 早道（亀を探す）
19. 衍道（亀を柵に入れる / 走って探す）
20. 撬道岩（門を開く）
21. 従道（亀を棒で押して策に入れる）
22. 走道（亀が逃げる）
23. 拿道（亀を捕まえる）
24. 番道（亀が裏返す）
25. 破道（亀を屠る）
26. 洒道（亀を清める）
27. 串道（亀を串刺しにして吊す）
28. 背道（亀を背負う）
29. 走道（走って運ぶ）
30. 解道（縄を解く）
31. 砍道（切る）
32. 炆道（炒める）
33. 承道（掬う）
34. 排道（盛り付ける）
35. 供道（供える）
36. 調道鬼（儀礼を行う）
37. 下降（神々が降りてくる / 祈る）
38. 収領（神々が亀を受け取る）
39. 却杏周（ ）
40. 台道（亀の形をたどりながら歩く）
41. 拆道齊（柵を解体する）

42. 開道門（門を開く）
43. 送道（亀を送る）
44. 出天香 擎上聖了（香を焚いて天に届ける）
45. 拆道條 元了（神々や祖先が見とどける）



“Running Way” (走道) / “Transfixing Way” (串道) (with a written text) UTSUMI Ryoko

Among Mien people in Lao Cai province, Vietnam, a ritual performance called “running way” (走道) or “transfixing way” (串道) is held in important ceremonies, like ordination ceremony, “*kwatang*” (掛燈). This performance consists of 45 process to catch a tortoise, cook it and dedicate to the Gods. In *kwatang* or in *tousai* (度戒) ceremonies, this performance is done by all the apprentices led by a master teacher as long as 45 minutes to over one hour.

First, they search for a proper place to build a fence to put the tortoise in. They make a gate and decorate it, then put poles, weave the wall. Make a pass for a tortoise to get in. They find the left hand, the right hand, the right foot, the left foot, the head, the tail, the liver, the intestine and the whole body. The tortoise runs fast and people run after it to the fence. They open the gate and put the tortoise inside, pushing it with a pole. The tortoise runs away. They catch the tortoise, turn it upside down, cut it and clean it. Then, they transfix the tortoise (with a pole). This is the 27th movement which becomes the name “transfixing way” (串道). In the 27th process, men raise their arms and make arches, then other men walk through under the arches one after another. In the 28th movement "back way" (背道), 2 men walk back to back like carrying the tortoise on their back. They carry the tortoise running. Now they release the rope, and cut the tortoise, fry it, scoop it, put on a dish then dedicate to the gods. They make ceremony and pray, and the gods come down and receive the tortoise offering. At the 40th movement, men walk around the ritual space like tracing a shape of a tortoise. Now they break the fence, open the door and send the tortoise off. Then they burn the incense and all the gods and ancestors recognize the ritual.

At the end of this performance, the master teacher sticks his sacred staff on a table and he and his apprentices hold that staff together to pass ancestors' and masters' spiritual knowledge of Meishan (梅山) school.

## 串団舞

著 趙金付  
訳 譚静

世人都知团鱼寿命长、安分守纪、和谐相处、与世无争。所以瑶族度戒和受戒者去世后的大道场，在请圣前，主醮师（或保奏师）、引度师（大兵师）带领受戒师男（孝男），当天当地，鸣角奏请天堂众圣下降醮地（道场），并展演串团舞蹈。实际教育和预祝受戒弟子无论在阴阳两世都要善心修道、与世无争、安分守纪、为民除害，方能长命百岁。是最高档次、最文明的请圣方式。

【訳文】スッポンは寿命が長いこと、己の本分を守ること、仲睦まじいこと、世事に対して超然としていることが世間によく知られている。そのため、瑶族の度戒と戒を受けたことがある者が亡くなった場合の葬儀の大道場では、神々を招請する前に、主醮師（あるいは保奏師）と引度師（大兵師）は戒を受ける師男（孝男）を率い、牛角を吹いて天堂の神々を招請し、「串団舞」を踊る。これは戒を受ける弟子を教育することであり、祝うことでもある。これらの弟子たちは、これから陰陽二世においても善心を持って修道し、争わず、己の本分を守り、民のために害を取り除くなら、百歳までに生きることができる。これは最も高次で文明的な神々を招聘するやり方である。

### 一、度戒仪式中的串团

封大斋，二次拨兵后，重整醮堂，将醮坛装饰一新，紧接着“串团迎圣”。仪式在醮坛内外分别进行。在内坛，主醮师启神后，将醮坛进行一番敕变，并将醮坛内的物件、法器一一敕变。如敕坛：

【訳文】「封大斋」は、第二回目の「拨兵」のあと、新たに祭壇を装飾する。続いてすぐ「串団」を行って神々を迎える。儀礼は祭壇の内と外で分けて行われる。内では、主醮師は神々に対して儀礼の事情を申してから、まず祭壇を勅変し、それから祭壇の中にある物事と法具を次々に勅変する。例えば、祭壇を勅変することは次のとおりである。

吾变此法，不是神坛，化为老君之殿。东角化为东海，南角化为南海，西角化为西海，北角化为北海，中央化为中海，五角化为五海，十丈洪波，万丈波浪，淹没此法坛，人见堂堂，鬼见灭亡。此坛不是非凡之坛，化为老君度法坛，东角化为东海，南角化为南沙，西角化为西海，北角化为北海，中央化为五湖四海，大道神师，凡人吾师得见是老君之坛，邪鬼得见灭亡。

【訳文】私はこの法を変じ、神壇は神壇ではなく、老君の宮殿に変化する。東の角は東海に変化し、南の角は南海に変化し、西の角は西海に変化し、北の角は北海に変化し、中央は中海に変化し、五つの角は五つの海に変化する。非常に高い浪でこの祭壇が水浸しになり、人間は見れば立派になり、鬼は見れば滅亡する。この祭壇は普通の祭壇ではなく、老君の法を伝授する祭壇に変化する。東の角は東海に変化し、南の角は南沙に変化し、西の角は西海に変化し、北の角は北海に変化し、中央は五つの湖と四つの海に変化する。大道の神のような師で、凡人が我が師匠を見れば老君の祭壇であり、邪鬼が我が師匠を見れば滅亡する。

在外台，证明师先行“云台”下，登上“文台”，“大开天门”，请天神一行众圣降赴醮坛，为凡作证。新度师男戴神头，托罗带，身着道袍，一手执牙筒，一手持铜铃，迎风飘然，立于内坛等待迎圣。主醮师、引度师带领师男行至云台脚下，鼓乐师、吹笛师金鼓齐鸣，升起云雷铎鼓。一阵铎鼓之后，主醮师、引度师带领新度师男行拜五方五位，每个方位插有一柱香。拜一方，主醮师唱一段，即“拜五方五位歌”：

【訳文】外の台では、証明師が先に「雲台」の下に立ち、「文台」に登り、「大开天门」を行う。天に住む神々を祭壇に降臨するように招請し、凡人のために証人となす。「師男」たちは神頭をかぶり、羅帯をつけ、法衣を着る。一つの手には牙筒を持ち、もう一つの手には銅の鈴を持ち、風を迎え飄然として、壇の内に立ち神々を迎えるのを待つ。主醮師と引度師は師男たちを連れて雲台の下に行く。鼓楽師と吹笛師は演奏し、雲雷鑼鼓を囃す。しばらく演奏してから、主醮師と引度師は師男たちを連れて五方五位を拝する。各方位には一本の線香が立てられている。一つの方向を拝してから、主醮師は「拜五方五位歌」を一回歌う。

- 1 拜请东方东斗李将军， 東方東斗の李將軍に拝して請う
- 2 中心烧起一炉香。 中心に一炉の線香を焚く
- 3 老君面前一对红旗， 老君の前に赤い旗が一对あり
- 4 将来借你明香拜五方。 いつか君によい線香を借りて五方を拝する
- 5 拜请南方南斗李将军， 南方南斗の李將軍に拝して請う
- 6 中心烧起一炉香。 中心に一炉の線香を焚く
- 7 老君面前一对红旗， 老君の前に赤い旗が一对あり
- 8 将来借你明香拜五方。 いつか君によい線香を借りて五方を拝する
- 9 拜请西方西斗李将军， 西方西斗の李將軍に拝して請う
- 10 中心烧起一炉香。 中心に一炉の線香を焚く
- 11 老君面前一对红旗， 君の前に赤い旗が一对あり

- 12 将来借你明香拜五方。 いつか君によい線香を借りて五方を拝する  
13 拜请北方北斗李将军, 北方北斗の李将軍に拝して請う  
14 中心烧起一炉香。 中心に一炉の線香を焚く  
15 老君面前一对红旗, 老君の前に赤い旗が一对あり  
16 将来借你明香拜五方。 いつか君によい線香を借りて五方を拝する  
17 拜请中央中斗李将军, 中央中斗の李将軍に拝して請う  
18 中心烧起一炉香。 中心に一炉の線香を焚く  
19 老君面前一对红旗, 老君の前に赤い旗が一对あり  
20 将来借你明香拜五方。 いつか君によい線香を借りて五方を拝する

主醮师鸣角开天门，带领众新度师男拜过五方五位众圣，请众圣下降醮坛，一路锣鼓齐鸣，笙箫相伴，迎圣转回醮坛，归至醮坛前，主醮师、引度师带领新度师男绕黄幡三周，入醮坛绕花楼跳“串团舞蹈”。串团舞蹈结束后，紧接着由证明师、保举师“恭迎圣驾”，着道袍“请初圣”。

【訳文】主醮師は牛角を吹いて天門を開き、「師男」たちを連れて五方五位の神々を拝してから、神々に壇への降臨を請う。ドラや太鼓、ショウの笛を演奏し、神々を迎えて祭壇に戻る。主醮師と引度師は師男たちを連れて黄幡を三周して回る。祭場にある花楼を回って「串団舞」を踊る。踊りが終わると、続いて証明師と保举師は神々が祭壇に降臨するのを恭しく迎える。法衣を着て「請初聖」をする。

## 二、大道场的升锣鼓、串团仪式

“串团”仪式在中国蓝山瑶族信仰科仪中，只在度戒科仪和大道场科仪中执行（所谓大道场，即是受戒者的道场）。其余仪式不行“串团”科演。

【訳文】中国藍山縣の瑶族が伝承するすべての儀礼の中で、度戒と大道場儀礼のみ「串団」儀礼が行われている（大道場とは、戒を受けた者の葬儀である）。その他の儀礼では「串団」は行われない。

### 1、升锣鼓

在进行“大道场”时，在升锣鼓仪式前禁奏乐器，升锣鼓仪式由保奏师、大兵师、鼓锣师和吹笛师出任。保奏师和大兵师身着三戒马甲，头戴神头法帽，保奏师手执牛角，大兵师双手执铙钹，鼓锣师手提大铜锣，吹笛师执唢呐，同三名打鼓、小钹、碗锣的助手立于大门内侧，接“排盏”礼仪的孝男召集众孝男有序地跟随锣鼓身后：从厅堂行至大门口黄幡、白幡处，在执香师预先插好的五方五位五柱香案前，保奏师鸣角三声，用瑶语筛话喃唱“拜五方五位”歌词，保奏师唱一段，众孝男拜一方，鸣角三声，锣鼓、唢呐齐鸣三曲。升锣鼓喃唱顺序是：

【訳文】「大道場」では、「昇鑼鼓」儀礼の前は楽器の演奏が禁止されている。「昇鑼鼓」儀礼は保奏師・大兵師・鼓羅師と吹笛師が担当する。保奏師と大兵師は三戒弟子を表すチョッキを着、頭に神頭法帽をかぶる。保奏師は手に牛角を持ち、大兵師は両手にシンバルを持ち、鼓羅師は大ドラを持ち、吹笛師はソナーを持ち、太鼓・小さなシンバル・碗鑼を演奏する助手の三人と並び、門の内側に立つ。「排盞」を受け取る孝男は孝男たちを集め、順番にドラや太鼓のあとについて、庁堂から入口の黄幡・白幡のところに至り、執香師があらかじめ立ち五方五位五本線香の祭壇前に並ぶ。保奏師は三回牛角を吹き、瑤語で「拜五方五位」歌詞を唱える。保奏師が一段落を歌うと、孝男たちは一つの方向を向いて拝し、牛角を三回吹き、ドラや太鼓やソナーは三曲演奏する。「昇鑼鼓」の順序は次のとおりである。

- |              |                  |
|--------------|------------------|
| 1 拜请东方,      | 東は東方青帝青將軍を拝する。   |
| 2 东方青帝青將軍,   |                  |
| 3 升起东方一炉香,   | 東方を向いて一炉の線香を上げ、  |
| 4 超度亡人△△     | 死者（死者名）を済度し、     |
| 5 洗身潔淨,      | 身を洗って清潔にする。      |
| 6 开桥开路送上天堂。  | 橋を開けて道を開けて天国へ送る。 |
| 7 拜请南方,      | 南は南方赤帝赤將軍を拝する。   |
| 8 南方赤帝赤將軍,   |                  |
| 9 升起南方一炉香,   | 南方を向いて一炉の線香を上げ、  |
| 10 超度亡人△△    | 死者（死者名）を済度し、     |
| 11 洗身潔淨,     | 身を洗って清潔にする。      |
| 12 开桥开路送上天堂。 | 橋を開けて道を開けて天国へ送る。 |
| 13 拜请西方,     | 西は西方白帝白將軍を拝する。   |
| 14 西方白帝白將軍,  |                  |
| 15 升起西方一炉香,  | 西方を向いて一炉の線香を上げ、  |
| 16 超度之人△△    | 死者（死者名）を済度し、     |
| 17 洗身潔淨,     | 身を洗って清潔にする。      |
| 18 开桥开路送上天堂。 | 橋を開けて道を開けて天国へ送る。 |
| 19 拜请北方,     | 北は北方青帝青將軍を拝する。   |
| 20 北方青帝青將軍,  |                  |
| 21 升起北方一炉香,  | 北方を向いて一炉の線香を上げ、  |
| 22 超度之人△△    | 死者（死者名）を済度し、     |
| 23 洗身潔淨,     | 身を洗って清潔にする。      |
| 24 开桥开路送上天堂。 | 橋を開けて道を開けて天国へ送る。 |

- |              |                  |
|--------------|------------------|
| 25 拜请中央,     | 中央は中央黄帝黄將軍を拝する。  |
| 26 中央黄帝黄將軍,  |                  |
| 27 升起中央一炉香,  | 中央を向いて一炉の線香を上げ、  |
| 28 超度之人△△    | 死者（死者名）を済度し、     |
| 29 洗身洁淨,     | 身を洗って清潔にする。      |
| 30 开桥开路送上天堂。 | 橋を開けて道を開けて天国へ送る。 |

拜毕五方五位香炉，升奏毕五方五位唢呐、锣鼓、牛角，众孝男紧跟大兵师和锣鼓师，绕黄幡行走八卦步法。

【訳文】五方五位の香炉を拝してから、五方五位を向いてソナー・ドラ・太鼓・牛角を吹奏する。孝男たちは大兵師と鑼鼓師のあとについて、黄幡の周りを八卦歩法で歩く。

## 2、串団

众孝男紧跟大兵师、鼓锣师、吹笛师拜毕五方五位，绕黄幡行走完八卦歩法，大兵师击铙钹，鼓锣师鸣铜锣、鼓、小铙钹、碗锣配合节奏，吹笛师吹奏“观音台”曲牌，回转厅堂，拜家先，拜请圣台上四柱香、拜四府、拜花楼“众位法师祖师灵台”，拜亡。一叩拜完毕，众孝男紧随大兵师，锣鼓师快速击钹鸣锣开道展演置团鱼、寻团鱼、捉团鱼、挪绳索、捆团鱼等舞蹈动作。在有序的舞蹈动作中绕奔花楼至黄幡，周而复始数十圈，每圈动作变化无穷，快速敏捷，队伍刚毅，时而变换方向。在“筛翁”领众孝男表演串团舞蹈千变万化的奔绕之中，参与者和围观者都显得其乐无穷，加之笙箫锣鼓齐鸣，法坛内显示白喜事热闹非凡。

### 【訳文】串団

孝男たちは大兵師、鼓鑼師、吹笛師のあとについて五方五位を拝する。黄幡の周りを八卦歩法で歩き終えてから、大兵師はシンバルを打ち、鼓鑼師はドラ、太鼓、小ハツ、碗鑼とリズムに合わせ、吹笛師は「観音台」の曲節を吹奏し、庁堂でぐるぐる回り、家先を拝し、聖台上にある四本の線香を拝し、四府を拝し、花楼の「衆位法師祖師靈台」を拝し、死者を拝す。一回礼拝を終えると、孝男たちは大兵師のあとについて、鑼鼓師は素早くシンバルとドラを打ち、道を開いて、スッポンを作ること、スッポンを探すこと、スッポンを捉まえること、ロープを動かすこと、スッポンを縛ることなどを踊りで表現する。秩序のあるしぐさをしながら花楼から黄幡まで回る。何十周も繰り返す、しぐさは万化し、速やかで敏捷で、隊列は剛毅で、時には方向を変える。「篩翁」が孝男たちを率いて踊り、その踊りはさまざまに変化する。参加者も観客もみんな楽しそうに見える。その

上、法壇の中ではシンバルやドラや太鼓は一斉に鳴り響き、葬式を祝うことのためならぬ華やかさが現れている。

串団，不是随意转圈，而是有序演示寻、捉、捆、背、破、烹、食、直至消化后，排泄团鱼的全过程，演示顺序是：

【訳文】串団は気の向くままに回転するのではなく、順番に「探す」「つかまえる」「縛る」「背負う」「裂く」「調理する」「食べる」、スッポンを消化して排泄する全過程を表現している。

(1) 制团鱼（制其头、制其眼、制其嘴、制其身、制其手、制其脚、制其尾）。

【訳文】スッポンを作る（その頭を作り、その目を作り、その口を作り、その身を作り、その手を作り、その足を作り、その尾を作る）。

(2) 寻团鱼（寻沙滩、寻急流、寻深渊、寻石岩、寻岸边、寻草丛、寻勒蓬。）

【訳文】スッポンを探す（砂浜を探し、急流を探し、深いふちを探し、岩を探し、岸边を探し、草むらを探し、ヨモギを探す）。

(3) 捉团鱼（捉其身躯、捉其脚、捉其尾。）

【訳文】スッポンをつかまえる（そのからだをつかまえ、その脚をつかまえ、しっぽをつかまえる）。

(4) 看团鱼（看其头的伸缩、看其眼珠滚动、看其颈摆动、看其手的抓拾、看其脚的爬行、看其尾的摆动。）

【訳文】スッポンを見る（その頭の伸縮を見、その目玉の動きを見、その首の動きを見、その手の掴む動きを見、その脚の這う動きを見、そのしっぽの揺れ動きを見る）。

(5) 挪绳索。

【訳文】ロープを動かす。

(6) 捆团鱼（捆其颈、捆其手、捆其脚、捆其身、捆其尾）。

【訳文】スッポンを縛る（その首を縛り、その手を縛り、その脚を縛り、その体を縛り、そのしっぽを縛る）。

(7) 背団魚

【訳文】 スッポンを背負う。

(8) 杀団魚

【訳文】 スッポンを殺す。

(9) 破団魚（开肠破肚、去肠胃、洗净。）

【訳文】 スッポンを破って開く（腹と胃腸を開き、胃腸をとり、綺麗に洗う）。

(10) 翻団魚（把内脏处理好。）

【訳文】 スッポンをひっくり返す（内臓をちゃんと掃除する）

(11) 切団魚

【訳文】 スッポンを切る。

(12) 烹调団魚（配料、下锅、出锅。）

【訳文】 スッポンを調理する（具、鍋に入れ、仕上がり）。

(13) 吃団魚

【訳文】 スッポンを食べる。

(14) 吃进団魚消化后，排泄団魚。

【訳文】 スッポンを食べて消化してから、排泄する。



## ベトナム、ラオカイ省のミエンによる「招兵」 (文書あり)

(解説 内海涼子)

掛燈、度戒、神像画開光などにおいて、「天兵」が速やかに家に来て、神壇に入るようにするため、祭司が神壇の前で 20 の所作を行う。祭司は、神壇手前の床に師棍を挿して立て、神壇との間を往復しながら所作を行う。またこの間、別の祭司が切り紙細工の紙製「招兵旗」を神壇の側に掲げて振る。全ての所作が終わった後、足の甲に乗せた剣を蹴って、神壇に入れる。

「招兵」における 20 の所作 (「招新大堂兵起平壇用」より。ラオカイ省『趙承家書  
好了 Sapa 県 Trung Chai 社 祭司所蔵)

- 1 架橋 (橋を架ける)
2. 托香 (線香を捧げもつ)
3. 帯帽 (帽子をかぶる)
4. 掃鞭 (鞭をもつ?)
5. 拖開 (開く)
6. 打羅 (ドラを打つ)
7. 打鼓 (太鼓を叩く)
8. 合字 (両手で兵を押す)
9. 吹笛 (笛を吹く)
10. 騎馬 (馬に乗る)
11. 抬較 (輿をかつぐ)
12. 寸傘 (傘をさしかける)
13. 扇子 (扇をもつ)
14. 水府 (龍に乗る水府功曹)
15. 地府 (寅に乗る地府功曹)
16. 陽間 (馬に乗る陽間功曹)
17. 起風 (風をおこし兵が飛ん来られるようにする)
18. 担旗 (旗をかつぐ)
19. 起車 (車に乗る)
20. 起鶴 (鶴に乗る)

Performance to invite the troops of spirit soldiers into the altar, by Mien in Lao Cai, Vietnam

UTSUMI Ryoko

In Mien rituals like ordination ceremony (*kwatang* 掛燈、*tousai* 度戒) and eye opening ceremony of paintings of sacred images, to invite the troops of spirit soldiers into the house altar, the main high priest performs 20 movements depicting spirit soldiers in front of the altar. During this, another priest is waving a paper flag beside the altar to notice the spirit soldiers right direction. After these 20 movements, the priest kicks the ceremonial iron dagger into the altar. This means the spirit soldiers get into the altar.

20 movements written in the text in Sapa are as follows

- 1 架橋 (make a bridge)
2. 托香 (hold a incense burner)
3. 帶帽 (put a cap on)
4. 掃鞭 (slash a whip)
5. 拖開 (open the way)
6. 打羅 (ring a gong)
7. 打鼓 (beat drums)
8. 合字 (push the soldiers with both hands)
9. 吹笛 (blow an oboe)
10. 騎馬 (ride on a horse)
11. 抬較 (carry a palanquin )
12. 寸傘 (hold an umbrella)
13. 扇子 (hold a fan)
14. 水府 (a messenger for the water on a dragon)
15. 地府 (a messenger for the underworld on a tiger)
16. 陽間 (a messenger of the earth on a horse)
17. 起風 (make wind to let the soldiers fly.)
18. 担旗 (carry a banner)
19. 起車 (ride in a carriage)
20. 起鶴 (ride on a crane, a messenger for the sky)

## 踢兵帰壇について

著 趙金付  
訳 倉澤茜

過山系ヤオ族は「度戒」と「還盤王願」、「大道場」等各儀礼を行う際、「出兵」と「招兵」儀礼が必ず行われる。通常「出兵」儀礼は祭司の弟子が長槍、刀、斧、棒、剣、錘などの兵器を手に持って、古代の戦う場面を踊りで演じるが、「迎兵」、「招兵」、「排兵」、「賞兵」、「踢兵帰壇」諸儀礼は最高位の祭司によって「開天門」と「閉天門」後に行われ、各種の兵隊を祭壇に帰還させる。これらの儀礼は盤ヤオ族の始祖盤瓠大王を慶賀し、大王が生前、戦う前に行った「出兵」と戦ったあとに行った「帰還」を再現したものである。李祥紅、王孟義の著書『盤瓠龍犬図騰的歴史文化淵源』の中に次のような記述がある。

盤瓠と公主が成婚後、夫婦が仲睦まじく幸せの様子に黄帝も喜んでいた……。

しかし、まもなく国境に反乱が起きて、その勢いが止まらなかった。二人の皇太子は盤瓠を排除する絶好の機会だと思い、盤瓠の軍に反乱軍を討伐させるよう父である皇帝に進言した。黄帝は進言を認め、盤瓠が先頭に立って軍を發した。盤瓠は將軍たちを愛し、また兵士たちをも労わるため、みんなに深く敬愛されていた。彼は勇敢で戦いと智謀に長けて、攻撃すれば陥落しないところはない。戦えば必ず勝つ、向かうところ敵なし。そのため、まもなく反乱を鎮めた。凱旋してからますます黄帝に寵愛された。この寵愛は二人の皇太子を超えた。そうすると、二人の皇太子からの嫉妬は恨みに変わった。彼らは黄帝の後継は盤瓠になることを恐れ、密かに盤瓠を除外することを決意した。

数年後、黄帝が病に倒れ危篤になり、盤瓠は宮廷の争いが無情残酷であることをよく知っていた。もともと盤瓠は黄帝の後継者になる気などなかったが、二人の皇太子は黄帝が死んだあと絶対に盤瓠のことを見逃さないのは明白だった。そこで、黄帝がまだ生きているうちに、妻子、使用人などを連れて馬車に乗ってこっそり都を去り南に向かった。暫くして黄帝が崩御した後、二人の皇太子は兵隊を連れて盤瓠の屋敷に押し掛けた。しかし、盤瓠一家はすでにいなくなっていた。盤瓠の知恵と勇敢、先見の明と悟りによって幸いに難を逃れた。

盤瓠の末裔は黄帝の恩を銘記し、祖先の恩を忘れず、祖先の徳が後世に続く。盤ヤオ族の子孫はおよそ大きな儀礼を行うたびに、始祖盤王が生前行った「用兵」、「帯兵」、「愛兵」、「待兵」、「安兵」の過程を再現している。

盤ヤオ族の大儀礼の中の「開天門」において、執り行う祭司は法衣を身につけ、神頭と法帽を被って、長鼓の前で祖師にお辞儀し、弟子が開天門を行うのを守ってくれるように頼む。弟子が牛の角笛、法事に使う剣と杖を持って足は歩罡を行い、入口へ向かい、

文台に立ち、天門を開くために順序通りの呪文を唱え、天門が開くようにと頼む。「碼頭意者」の中で天に事由を奏上し、天堂の諸神に兵隊を与えもらいさらに兵隊を家先壇に戻してくれるように頼む。そして文台の上で「送銭」、「送馬」、「送聖」を行う。祭司が迎えてきた兵隊を三枚の紙銭に集めて、丁寧に折って、赤い糸で法剣の取っ手に結ぶ。五方に向かってお辞儀し、角笛を鳴らして天門を閉める。兵隊を迎えるドラ、太鼓、ソーナの囃子が鳴らされる中、祭司は喜びに満ちた表情で兵隊を連れて庁堂に入る。

祭司が賑やかな囃子の中、兵隊を連れて部屋に入った後、灯明がともされている家先壇の前に立つ。躍動感のある動きで古代の各種類の兵隊の行軍と訓練を演じる。演じる程序は以下の通り。

- 1、古代軍の兵士が行った「探路」（道を探す）、「斫路」（道を開く）、「挖路」（道を掘る）、「鏟路」（道を均す）、「鋪路」（道を敷く）、「挖戦壕」（塹壕を掘る）などの動作。
- 2、将軍が兵隊を率い、かごに乗ったり、馬車に乗ったりして行軍と駐屯の指令を出す動作。
- 3、「騎馬」、「騎鶴」、「騎龍」、「騎虎」、「騎獅」など馬、鳩、龍、虎、獅子に乗って、陣頭に立ち刀を振って指揮を執り、行軍や戦いの指示を出す動作。
- 4、長槍、刀、斧、棒、剣、錘などを背負う正規軍の行軍と戦いの動作。
- 5、旗を担ぐ、喇叭を吹く、銅鑼を敲く、笛を吹く、歌を歌うなど勇敢に戦う軍を鼓舞する動作。

各種類の兵隊の訓練、行軍、戦いを演じた後、また「閱兵」、「接兵」、「賀兵」、「安兵」、「排兵」、「合兵」などの動作を演じて、招いた兵隊を家先壇に駐在させる。最後演じるのは暖かく兵隊をもてなす場面で、例えば座らせ、お茶、煙草、お菓子、粽などを献じる動作を行う。すべて演じ終わると、祭司は兵隊を結び付けてある剣を右足の甲に乗せて、力いっぱい家先壇に蹴り入れる。また蹴り入れた剣を香炉の中に挿し込む。祭司は囃子の鳴る中歩罡を行いながら祖先と諸神、壇上の四つの蠟燭に招聘された神々、花楼霊台の上の祖師たちに礼拝し、法衣を脱ぐ。法衣を脱ぐ際、施主は直ちに祭司の前にひざまずきひたすらお辞儀し感謝を示す。祭司もすぐに施主にお祝いの言葉を送り言祝ぐ。その後、もう一人の祭司がすぐに「収帰兵馬歌詞」を唱える。

- 1 家主男，家主男，收归兵将护香坛，（施主よ、施主よ、兵隊が帰り家先壇を守る）
- 2 收归兵头人兴旺，保你年年谷满仓。（大勢の兵隊が帰り年々豊穰が約束される）
- 3 家主郎，家主郎，收归兵头转家堂，（施主よ、施主よ、兵隊が帰り家堂にある）

- 4 收归兵将家兴旺，五谷丰登千万仓。（兵隊が帰り家業も盛んで、五穀豊穡で倉庫が満ちる）
- 5 香坛里哪归并将，千兵万马归香坛，（香壇のどこに兵隊が帰すか、千軍万馬香壇に帰る）
- 6 香坛也旺人也旺，人才兴旺得风光。（香壇も盛んで人も繁栄、人が栄え面目が立つ）
- 7 香坛里哪兵收归，千兵万马归坛头，（香壇のどこに兵隊が帰すか、千軍万馬は壇頭に帰る）
- 8 香坛也旺人也旺，人兴财旺大风流。（香壇も盛んで人も繁栄、人が栄え風雅である）
- 9 香坛里哪招兵转，千兵万马转坛前，（香壇のどこに兵隊を呼び戻すか、千軍万馬は壇前に帰る）
- 10 香门也旺人也旺，人兴财旺万万年。（香門も盛んで人も繁栄、人が栄え万年に至る）
- 11 兵也归来马也归，千兵万马转家中，（兵も馬も帰る、千軍万馬が家に戻る）
- 12 正是兵马齐到坛，兵强马壮家坛红，（兵も馬も揃って壇に帰る、兵は強く馬は丈夫家も繁栄）
- 13 兵也喜，马也喜，千兵万马归家坛，（兵も喜ぶ馬も喜ぶ、千軍万馬が家先壇に帰る）
- 14 正是兵马齐到坛，收归兵马家坛安。（兵も馬も揃って壇に着く、兵も馬も帰り家先壇が落ち着く）
- 15 兵也转，马也转，转到家中保家堂，（兵も馬も戻って、家に戻って家を守る）
- 16 千兵万马都安乐，人兴财旺用安康。（千軍万馬は安らかで楽しい、人が栄え無事で健康である）
- 17 兵也归，马也归，安乐家中有神威，（兵も馬も戻って、家の中が安らかで楽しいのは、神の威力のおかげ）
- 18 千兵万马都安乐，人兴财旺望神催。（千軍万馬みな安らかで楽しい、人が栄えるよう神に願う）

以上

## 简述踢兵归坛

赵金付

过山瑶举办“度戒”“还盘王愿”和做“大道场”各科仪中，都有“出兵”和“招兵”仪式。一般出兵仪式由法师的弟子科演远古时代持长枪、刀、斧、棒、剑、锤等兵器拼杀舞蹈。迎兵、招兵、排兵、赏兵、踢兵归坛则是三戒法师大开天门和闭天门后科演各兵种归坛安驻。实际是纪庆盘瑶始祖盘瓠大王生前出兵作战和班师回朝的科演。李祥红、王孟义著《盘瓠龙犬图腾的历史文化渊源》一书这样记述：

盘瓠与公主成婚后，小两口恩爱幸福。黄帝见了很高兴……

不久，边关叛乱，其势锐不可挡，两位皇子觉得是除掉盘瓠的好机会，于是向父皇举荐，由盘瓠挂帅征讨叛军。皇上准奏，盘瓠挂帅出征，他关爱将领，又体恤士兵，深受官兵爱戴；他英勇善战、足智多谋、攻无不克、战无不胜、所向无敌，很快平息战乱，凯旋班师回朝，皇上愈发宠爱，胜过两位皇子。这时，嫉妒化为仇恨，两皇子担心皇位落入盘瓠手中，于是暗下决心，除掉盘瓠。

几年后，皇上病危，盘瓠深知宫廷斗争残酷无情，他本无意皇位，知道两位皇子在皇上去世后绝不会放过自己。于是，皇上还没驾崩前带上妻子儿女、仆人，驾几辆马车，悄然离开京城，向南方奔来，不久皇上驾崩，两位皇子带兵闯驸马府，驸马一家早走得无影无踪了。盘瓠的大智大勇、大彻大悟，才侥幸逃过这生死大劫。

盘瓠后裔，不忘皇恩，不忘祖恩，祖德流芳，盘瑶子孙凡做大法事，都要演示始祖盘王生前用兵、带兵、爱兵、待兵、安兵的过程。

盘瑶大法事中开天门，执行法师身着法服，头戴神头法帽，在花鼓前向众位祖师叩首，请祖师保佑师男大开天门，手执牛角、法剑、法杖、脚踏罡步、行至门口站立文台上，依大开天门程序咒请。在“码头意者”中道明向天圣上奏事由，叩请天堂众圣赐给和放行兵马收归家坛。然后在文台上送钱、送马、送圣。法师收迎来的兵马兵将集中在三张钱供上，细心折叠好，用一红丝线扎在法剑手柄上，拜过五方五位，鸣角关上天门。在迎兵入堂的锣鼓笙曲中，执行者满怀喜悦带兵入堂。

执行者带兵入堂，在热闹非凡的锣鼓笙曲中，立于灯火辉煌的家先神台前。生动活泼地科演一幕幕古代各兵种行军，操练动作，演示程序是：

1. 古代军兵探路、砍路、挖路、铲路、铺路、挖战壕军动作；

2. 带兵收师乘轿、坐马车指挥行军和安营扎寨动作；
3. 骑马、骑鸽、骑龙、骑虎、骑狮等将官挥刀指挥行军和调动兵士作战动作；
4. 扛长枪、刀、斧、棒、剑、锤等正规作战兵地行军和挥刀作战动作；
5. 扛旗、吹号、敲锣、打鼓、吹笛、唱曲军鼓舞战士英勇作战的动作。

科演完各兵种操练、行军、作战动作，再演示阅兵、接兵、贺兵、安兵、排兵合兵动作，请新招兵马兵将安落家先神坛。最后演示热情招待兵将，如请坐、献茶、献烟、献果、献粽子等动作。演示完毕，执行法师将扎有兵马兵将的法剑放在右脚脚趾，使劲一脚踢上家先神台，再将法剑插在香炉中。执行法师在锣鼓笙曲中以罡步拜过家先众神，拜过请圣台上四柱香的众圣，再拜过花楼灵台上的众位祖师。脱去法服，在脱法服之际，家主立即跪于执行法师面前叩拜不已地行致谢礼。执行法师随即踢给家主恭贺佳吉语。待法师赐给吉祥贵语道毕，另一法师紧接着喃唱“收归兵马歌词”：

家主男，家主男，收归兵将护香坛，  
收归兵头人兴旺，保你年年谷满仓。  
家主郎，家主郎，收归兵头转家堂，  
收归兵将家兴旺，五谷丰登千万仓。  
香坛里哪归并将，千兵万马归香坛，  
香坛也旺人也旺，人才兴旺得风光。  
香坛里哪兵收归，千兵万马归坛头，  
香坛也旺人也旺，人兴财旺大风流。  
香坛里哪招兵转，千兵万马转坛前，  
香门也旺人也旺，人兴财旺万万年。  
兵也归来马也归，千兵万马转家中，  
正是兵马齐到坛，兵强马壮家坛红；  
兵也喜，马也喜，千兵万马归家坛，  
正是兵马齐到坛，收归兵马家坛安。  
兵也转，马也转，转到家中保家堂，  
千兵万马都安乐，人兴财旺用安康。  
兵也归，马也归，安乐家中有神威，  
千兵万马都安乐，人兴财旺望神催。

## 漢字経典『盤王大歌』と歌唱

廣田律子

ミエン・ヤオに伝承される飄遙過海神話にあるように、かつてミエン・ヤオ族が海を渡り遭難した際、三廟聖王に救いを求め願を掛け、無事に上陸できたので、約束を果たす祭祀を行うようになった。神々との契約関係は現在に至っても引き継がれ、救世主盤王に象徴される祖先神は、子孫の祈願の対象であり続け、大願成就の願ほどの祭祀が続けられてきたのである。

神話叙事および歴史叙事である『大歌書』（いわゆる『盤王大歌』）を詠唱することで自民族の起源や出自にかかわる伝承を再確認し、祖先を讃え、綿々と継承されてきた祭祀契約とその履行の実践である祭祀が行われ、儀礼と歌が結び付き歌堂（ゾウダーン）と称される。

漢字経典の『盤王大歌』にはミエン・ヤオ族のアイデンティティーが象徴的に表現されているといえる。韻文の経文で、七言上下句が対をなし、七言の四句をひとまとまりとして構成され、日常使用されるミエン語や漢語とは異なる音訓が付され、経文によって異なるリズムと旋律をそなえた曲節を付けて発声される。経文には対句や反復や多義の比喻表現が用いられるが、儀礼の実践では経文を文面通り読誦するだけではなく、口承と書承部分を混在させたり、掛け合い問答形式を進める等極めて難解な法則が存在する。

祭祀性の強いとされる七言からなる詞章は、祭祀の場において歌謡語を用いた詠唱という形態を取って表出されることで、より一層呪力が発揮されると考えられていると推測する。神の声によって、七言の調子でミエン・ヤオ族の重要な民族知識が伝えられることに意義があるといえる。

この『盤王大歌』の複数の写本を対照してプロトタイプの再構成とバリエーションの確定作業を進める必要がある。今回ヤオ族文化研究所に写真版で収集されている中国・タイ・ベトナムのミエン・ヤオ族の間に伝承される写本を並べて示し、祭司たちに実際に詠唱してもらおう。取り上げるのは「盤王起計」部分のみである。



## 汉字经典《盘王大歌》与歌唱

著 廣田律子

訳 倉澤茜

正如勉瑶所传承的漂遥过海的神话所记载，勉瑶曾经在渡海遇难之际，向三庙圣王求救并许下感恩之愿。结果平安上陆，为履行诺言而决定举行祭祀。因而与众神的契约关系延续至今，象征着祖先神的救世主盘王一直是子孙们祈祷的对象，成就大愿的还愿祭祀也一直被延续下来。

集神话叙事与历史叙事于一身的经典是《大歌书》（咏唱《盘王大歌》既是对本民族起源及有关血脉传承的再确认，也是颂扬祖先，实现延绵持续下来的祭祀契约及对履行诺言的实践。）融仪礼与歌唱为一体的被称为歌堂。

可以说汉字经典《盘王大歌》中象征性地表现了勉瑶的自我认同感。其构成是押韵的经文，七言上下对句，四句为一段落。而且附有读音，读音与日常使用的勉瑶语和汉语都不同。经文不同，歌唱时附加的节拍旋律和曲调也不同。虽然经文中采用了很多对句、反复、多种比喻等修辞手法，但是在举行仪式上歌唱的不只是原本经典，也混合着口头传承的内容。而且采用对口问答形式进行歌唱等方式也显示了其难解的规则。

被认为祭祀性很强的七言词句在祭祀场合用歌谣语的形式来咏唱，可以推测有助于增加法术力量。来自神灵的声音，用七言语调来传述勉瑶的重要的民族知识，意义匪浅。

我们认为，对《盘王大歌》的复数手抄本进行对照比较，并把这种对照比较记录下来确认其构成种类是非常有必要的。这次我们准备展示瑶族文化研究所收藏的在中国、泰国、越南的勉瑶之间所传承的手抄本的照片。请祭司们进行咏唱。咏唱的是《盘王起计》这一部分。

2019 インターナショナルウィーク  
インドシナデイズ IN 湘南ひらつかキャンパス  
—少数民族ミエン・ヤオの文化と伝承— 説明集

発行日 2019年11月16日

発行 神奈川大学経営学部・理学部 一般社団法人ヤオ族文化研究所

※本書内容について文書による許可なく、無断転載・複製することを禁じます。



